



豊川改修期成同盟会・豊川改修工事促進協議会の皆様が 新丸山ダム工事事務所を訪問

令和5年11月24日



Twitterはこちらから

○ 11/24(金)豊川改修期成同盟会・豊川改修工事促進協議会の皆様が当事務所を訪問され、丸山ダム再生事業の必要性や、新丸山ダム本体工事の進捗状況を現場近くで視察された際には、多くの質問をいただきました。新丸山ダムをはじめダム建設・再生事業について、より理解を深めていただきました。

丸山ダム管理支所屋上から工事状況を説明



目標1 洪水調節の強化：洪水などの災害から地域を守ります POWER UP

木曾川で戦後最大となる昭和58年9月洪水と同規模の洪水を安全に流下させます。新丸山ダムにより、昭和58年洪水で大きな被害があった美濃加茂市・可児市付近の今瀬地点で約2.7mの水位低下効果(新丸山ダム完成時の河道を想定)が見込まれ、河川氾濫による浸水被害をなくします。

●今瀬地点下流(河口から約67.0km付近)

新丸山ダムがない場合(昭和58年) 水位低下が2.7m

新丸山ダムがある場合(令和5年) 水位低下が2.7m

新丸山ダム整備後

被害なし

目標2 流水の正常な機能の維持：渾水から河川環境を守り清らかな流れを目指します NEW

河川の流量が少なくなると、川に生息する動植物の生息環境が減少したり、海水が河川を遡上し、水利用に影響を及ぼしたりします。この他にも、河川の水質などへの影響も生じます。このため、渾水時には、上流の岡本川ダム、味津川ダムに加え、新丸山ダムからの補給によって、河川環境の保全と既得取水の安定化に必要な河川流量の一部である40m³/s(木曾成戸地点(岐阜県海津市))を確保します。

渾水により河川流量が減少
ダムから補給したときの河川流量
確保流量 40m³/s
新丸山ダム
味津川ダム
岡本川ダム
ダムがなかったときの河川流量

新丸山ダム建設事業の概要説明
(スクリーン画面はイメージです)